

高校公民プリント（過去問類似）

青年期と現代社会 No.5

名前

得点

/10

問1 人間は自然の征服者ではなく、生物共同体の単なる一構成員にすぎないとし、大地や動植物を含む生態系全体を尊重すべきであるとする「土地倫理」を提唱した、アメリカの環境倫理思想家は誰か。（2022年 全国公立入試 類似）

1. レイチェル・カーソン 2. ピーター・シンガー 3. ガレット・ハーディン 4. アルド・レオポルド

問2 近代の科学技術がもたらした物質的豊かさの一方で、地球環境の破壊や核兵器の脅威といった負の側面が顕在化した。これに対して、従来の倫理学が同時代の人間の相互関係のみを対象としていたことを批判し、人類の存続や未来世代、さらには自然に対する責任を基本とする新しい倫理を提唱したドイツ出身の哲学者は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. ジョン・ロールズ 2. ピーター・シンガー 3. ハンス・ヨナス 4. マイケル・サンデル

問3 青年期の心理において、欲求不満（フラストレーション）や葛藤（コンフリクト）から生じる不安や苦痛を和らげ、自我を守ろうとする無意識の心の働きを「防衛機制」という。このうち、自分にとって受け入れがたい不快な欲求や記憶を、意識の下に押し込めて忘却しようとする最も基本的な働きを何というか。（2009年 全国公立入試 類似）

1. 否認 2. 逃避 3. 代償 4. 抑圧

問4 アメリカの社会学者が著書『孤独な群衆』の中で提唱した概念で、他者の期待や行動を敏感に察知し、それを自らの行動基準として周囲に同調しようとする、現代の大衆社会に特徴的な社会的性格を何というか。（2019年 全国公立入試 類似）

1. 伝統指向型 2. 他人指向型 3. 内部指向型 4. 市場指向型

問5 古代ローマの政治家・哲学者であり、肉体の衰えを伴う老年期を、豊かな経験に基づく知恵の獲得や精神的な完成の時期として肯定的に捉える著作『老年について』を著した人物は誰か。（2006年 全国公立入試 類似）

1. プロティノス 2. セネカ 3. ルクレティウス 4. キケロ

問6 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」といった性別に基づく固定的な意識を見直し、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指して、1999年に制定された法律は何か。（2009年 全国公立入試 類似）

1. 次世代育成支援対策推進法 2. 労働者災害補償保険法 3. 男女共同参画社会基本法 4. 男女雇用機会均等法

問7 青年期における葛藤（コンフリクト）の具体例として、「条件の良い企業の採用面接と、本当に挑戦したかった劇団のオーディションが同日同時時間帯に重なってしまい、どちらか一方しか選べない状況」のように、魅力的な二つの選択肢のどちらも選びたいが、同時に選択できないために生じる葛藤を何というか。（2011年 全国公立入試 類似）

1. 接近－回避の葛藤 2. 回避－回避の葛藤 3. 接近－接近の葛藤 4. 回避－接近の葛藤

問8 第一次世界大戦前からアフリカのランバレーネ（現在のガボン）に赴き、現地の人々のための医療と布教活動に生涯を捧げた人物は誰か。彼は、すべての生きようとする生命を尊び、他者を助け生かすことを善とする思想を提唱した。（2014年 全国公立入試 類似）

1. ケルケゴール 2. シュヴァイツァー 3. ボンヘッファー 4. シュライアマハー

問9 青年期を、大人としての社会的責任や義務が一時的に免除される「社会的猶予期間」と位置づけ、この時期におけるアイデンティティ（自己同一性）の確立の重要性を説いたアメリカの心理学者は誰か。（2014年 全国公立入試 類似）

1. シュブランガー 2. レヴィン 3. エリクソン 4. オルポート

問10 近代市民社会の成立によって獲得された自由が、孤独や不安をもたらす重荷となり、人々が自発的にファシズムなどの強大な権威へと服従していく心理を分析したドイツ出身の社会心理学者は誰か。（2007年 全国公立入試 類似）

1. ミード 2. パース 3. フロム 4. ユング

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 4 アルド・レオポルド	人間を自然の支配者とみなす従来の人間中心主義的な自然観を批判し、人間を生物共同体の一構成員と位置づける「土地倫理」を提唱した。彼は、人間は土地（土壌、水、植物、動物）を単なる資源として利用するだけでなく、それらを含む共同体全体に対して倫理的な責任を負うべきだと主張した。
問2	答え 3 ハンス・ヨナス	近代科学技術の巨大な力がもたらす負の側面を直視し、従来の倫理学の枠組みを超えて、未来世代や地球上の生命全体に対する人間の責任を問う「責任原理」を唱えた。これは理性のあり方を多角的に再考する現代倫理の代表的な思想である。
問3	答え 4 抑圧	不安や苦痛をもたらす不快な欲求や記憶を、無意識のうちに抑え込んで思い出さないようにすることで、心の安定を保とうとする働きは「抑圧」と呼ばれる。これは防衛機制の中でも最も基本的かつ代表的なものである。
問4	答え 2 他人指向型	社会の発展段階や人口動態の変化に伴い、人間の社会的性格が「伝統指向型」「内部指向型」「他人指向型」へと移行すると分析された。現代の消費社会・大衆社会においては、他者の動向や期待を敏感に察知し、それに合わせようとする同調傾向が顕著になるとされる。
問5	答え 4 キケロ	著作『老年について』において、老いがもたらす肉体的な衰えや快樂の喪失を否定的に捉える世間の見方に反論した。老年期こそが豊かな経験に基づいた知恵や判断力を発揮し、精神的な完成（人格の完成）へと向かう独自の価値を持つ時期であると主張した。これは、老いを人生の衰退期ではなく、精神的な豊かさを獲得する重要な時期として肯定的に位置づける代表的な思想である。
問6	答え 3 男女共同参画社会基本法	1990年代後半、固定的な性別役割分担意識の変化や国際的なジェンダー平等の潮流を背景に、男女が対等な共同参画者としてあらゆる分野で活躍できる社会づくりを目指す基本法として、1999年に制定された。この法律に基づき、男女共同参画計画の策定などが進められている。
問7	答え 3 接近－接近の葛藤	レヴィンが提唱した葛藤の類型において、プラスの価値を持つ二つの対象（接近したい対象）が同時に現れ、その両方を選択することが不可能な場合に生じる葛藤である。これに対し、マイナスの価値を持つ二つの対象からどちらかを選ばなければならない状況は「回避－回避の葛藤」、一つの対象に対してプラスとマイナスの両方の感情を抱く状況は「接近－回避の葛藤」と呼ばれる。
問8	答え 2 シュヴァイツァー	アルベルト・シュヴァイツァーは、オルガン奏者や神学者としての地位を捨てて医学を学び、アフリカの赤道直下にあるランパレーネで医療活動とキリスト教の布教活動に従事した。すべての生命を神聖なものとして敬う「生命への畏敬」を唱え、1952年にはノーベル平和賞を受賞した。
問9	答え 3 エリクソン	青年期を社会的猶予期間（モラトリアム）と呼び、アイデンティティの確立をこの時期の発達課題として位置づけたのは、アメリカの心理学者エリクソンである。ルソーは『エミール』の中で青年期を「第二の誕生」と表現し、ハヴィガーストは各発達段階における課題を整理した。
問10	答え 3 フロム	近代社会において自由を獲得した個人が、その自由に伴う孤独や不安に耐えかねて、自ら進んでナチズムなどの全体主義的な権威に従属していく心理を分析した。この思想は著書『自由からの逃走』において示され、大衆社会におけるファシズム台頭の背景を解き明かしたものとして知られる。